



琉球玩具 通信



No. 5

2026.01.25.

琉球玩具に関する情報交換と記録の広場

目次

こどもの頃の遊びの思い出②.....國吉 眞隆.....1
 草玩具を作り、動かして遊ぶ.....與儀 誠一.....2
 波照間島でのこどもの頃の遊びの思い出.....島村 賢正...3

リーフクラフトを八重山の新しい文化に！⑤
 イノシシの編み方.....谷崎 樹生.....5
 身近な植物で草玩具を作ろう④.....西平 守孝.....7

こどもの頃の遊びの思い出②

國吉 眞隆

丁度1年前に紹介しました「紙鉄砲」などに続き、今回は竹馬とササ舟について紹介したいと思います。いずれもこどもの頃の楽しい思い出多い遊びでした。いくら怪我などの危険を伴うこともありましたが、楽しく遊んだものです。

1) 竹馬

沖縄では竹製ではなく、木製でした。そのため、子どもたちの間では「キーンマ」と呼んでいました。キーンは木、マは馬のことです。

小学校の高学年ともなれば、大工道具が使えるようになりましたので「キーンマ」作りをしました。昔は現在のようなホームセンターはありませんでしたので、材料や大工道具が不足していて、うまくできなかったように思います。

- ① **遊び方** (かけっこをして遊ぶことが多かったことを覚えています)
- ・キーンマに乗って、走り競争をしました。いわゆる「かけっこ」です
 - ・幅跳び競争もして遊びました
 - ・ケンケン(片足跳び)で持久走もして遊んだものです
- 那覇市内のある幼稚園では、父母の協力で数組のキーンマを作って置いたところ、男女の別なく多くの園児たちが乗りこなすようになりました。こどもは遊びの天才です



キーンマ 木製の竹馬を「キーンマ」と呼びました
(写真中央は脚を載せる部分の拡大図)

2) ササ舟

雨の日などには即興でダンチクのササ舟を作り、流して楽しく遊んだものでした。

- ① **材料と作り方**
- ・材料はダンチクの葉 (首里方言では「デーク」と呼んでいました)
 - ・写真に示すように、ごく普通のササ舟と同じように作りました
 - ・ダンチクは、いくらか湿った土地に生えていることが多かったので、雨の日には即席のササ舟を作って遊びました
- ② **遊び方**
- ・即席で作ったササ舟を、流れが速くなった溝に浮かべ、流して遊んだものです



ダンチクのササ舟



ササ舟 道具など使わずに容易に作ることができます



折り紙の舟 折り紙でも舟を作りました

くによし まさたか
那覇市首里鳥堀町在住

物が不足していた時代に、身近にある植物で玩具を作って子供たちを楽しませた時代から見れば、今や隔世の感があり、プラスチック製の怪獣などがあふれています。昔懐かしいやり方で草玩具を作る方法が、「琉球玩具通信」でいくつか紹介されていますが、アダンやクバの葉などで作る伝統的な作り方は不器用な私には不向きなので、より簡単な方法で作ることができる創作玩具に挑戦してみました。これまで紹介したものと重複するものが多いのですが、改めて紹介したいと思います。皆さん方もチャレンジしてみてください。

1) さまざまな植物の部分

植物のさまざまな部分を使って、それぞれに合った玩具を作ってみましょう。工夫次第でいろいろなものができるのではないのでしょうか。

1) さまざまな植物の部分

ご存じのように、クロトンの葉にはさまざまな形、色彩のものがあります。それらの特徴を活かして、草玩具を作ることができます。葉を使うことの欠点は、数日たつと色がくすんでしまうことでしょう。早めに写真に撮って画像として保存することがよいようです。生きている時の葉の色を、そのまま利用した草張り子は、従来の張り子とは趣が異なるもので、一味違ったものを作ることができます

② 月桃の実とヤシの葉

鈴なりになった月桃の実を一つ取り、カタツムリを作ってみましょう。また、ヤシの葉をうまく整形することによって、月桃とは趣の異なるカタツムリを作ることができます。ちょっとした工夫次第です。

③ アボガドの皮

アボガドの皮は新鮮な時は柔らかいのですが、しばらくすると緑色から暗い黒色に変化して硬くなります。そのため手早く形を整えるとよいでしょう。いくつかの部品を作って組み合わせれば、ここで示すカメや他の動物たちを作ることも容易です

④ アロエの葉

アロエのトゲトゲの葉を利用して、面白い形の怪獣を作ることも手軽にできます。アロエの葉の背中に、他の植物の小さな種子で目を付けたり、クロトンの葉を小さく切って背に貼り付けたりすれば、変な怪獣のでき上がりです。他にもいろいろ作ってみましょう

⑤ マンゴウの種

マンゴウの種は、片方に細い繊維が沢山ついています。それを活かして魚を作るのに最適です。食べた後の種を利用しましょう。それらしく目も付けておけば、なお一層魚らしくなるでしょう

2) 動かして遊ぶ

これまで紹介しましたように、いろいろ工夫して作った草玩具を、磁力を使って動かしたり、動画ソフトで動かしてみるのも面白いことです。右や下の写真に M と表示したものは磁力を利用して動かしたもので、S は動画ソフトを使って動かしてみたものです。「youtube gi gi 沖縄草玩具をうごかす」と入力して検索すれば、youtube でも見ることができるようにおきましたので、時間がおありの方は是非一度ご覧ください。また、近くに出てくる「Gi Gi-YouTube」をクリックすれば、他のものも見ることができます。



カロウビンガの部品

カロウビンガ

キリン



月桃の実のカタツムリ

ヤシの小葉で作ったカタツムリ



カメのパーツ

カメ



アロエの葉の怪獣 ①

アロエの葉の怪獣 ②



マンゴウの魚



アロエの怪獣



ンマ



かたつむり



マンゴウの魚

よぎ せいいち
那覇市首里崎山町在住

私の生まれ育った波照間島は日本最南端の有人島で、今でもアクセスが不便な離島です。1950・60年代は、市販の遊び道具はほとんどなく、こども達は身近にある植物を利用して遊んでいました。その代表がマーニ(=クロツグ)です。マーニは農地基盤整備等で少なくなりましたが、当時は屋敷や畑の周辺など集落の近くにもあり、容易に採集することができました。こどもの頃に波照間島で遊んで、楽しかった頃の思い出を紹介したいと思います。

1) マーニ (=クロツグ)の遊び

マーニの葉柄(葉)で「チャンバラごっこ」や「走り高跳び」、小葉で「フタシミ(=ヤモリ)釣り」などの遊び道具を作り、皆で楽しく遊びました。チャンバラごっこは部落会館の庭で、高跳びは田んぼで行いました。今では田んぼはサトウキビ畑に換わりましたが、1960年始め頃までであった稲刈り後の天水田に、クッションの役目をする藁を敷いて高跳び遊びをしたものです。また、フタシミ釣りは春から秋の夕暮れ時に、穀物を貯蔵してある茅葺きのフツファ(=高倉)で行いました。

どの遊び道具も、当時の小学校中学年以上であれば、鎌を使って簡単に作ることができる遊び道具です。その頃の島の小学生の男子は、各家庭で数頭のヤギの飼育を任されており、数名で連れだって餌となる草刈りをしました。1~2年生はオンダ(=草入れ用網袋)を持って兄や先輩の仕事を手伝い、3年生頃からはヤギの草刈りに鎌を自在に扱えるようになっていました。

琉球玩具1~4で紹介された遊び道具のように、複雑な作業工程はありませんでしたので、自作したそれぞれの写真を紹介しておきます。

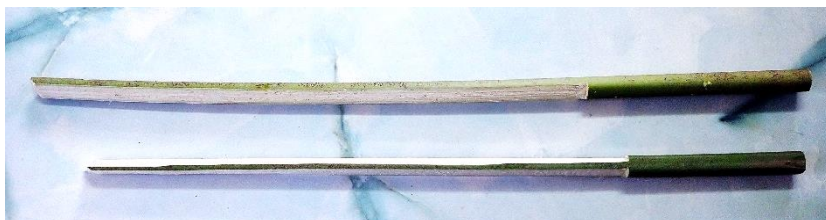


マーニ(=クロツグ)

① チャンバラごっこの刀

クロツグの葉柄の内(葉表・上・茎)側を刀の刃先に、葉柄の外(葉裏・下)側を刀の峰(背)になるように使います。できるだけ反り返った成熟した堅い葉柄を使うことがよいとされました。葉柄の根元に近い太い部位を刀の柄(グリップ)にして、細くなる葉柄の先を切先にしますと、刀に程よいそりができてそれらしくなります。

まず、握った両手の幅でグリップと刃身の境を決め、そこから切先までの長さを決めて葉柄を切り落とします。葉柄の外皮は堅いので用具はノコギリと鎌が望ましいでしょう。包丁や小刀、カッターナイフでは堅い皮は切り難く、滑ってとても危険です。グリップと刃身の境は、ノコギリで葉柄の芯に向かって切り目を入れた方が安全で作業が楽でした。鎌を使う場合は、外皮が硬いので細心の注意が必要であったことは言うまでもありません。刃身を作(削)る時は鎌を使います。鎌の柄を両足で力強く挟み、グリップを手で掴んで、グリップと刃身の境から切先に向かって葉柄を手前に引いて削っていきます。刀の背が厚く刃先が細くなるように傾斜を付けて削っていき、それらしく仕上げます。刃先を薄くし過ぎると、チャンバラの時に相手の刃先に当たって潰れるので、適当な厚みを付けることが肝心でした。子供の頃はありませんでした、現在はダンボールで鐔(つば)を付ければ更に良い感じに仕上げるができると思います。



刀



グリップ断面



刃身と刃先



グリップと刃身の境

② 走高跳びの支柱とバー

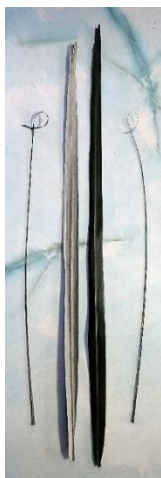
支柱は、なるべく真っ直ぐで成熟した堅く長い葉柄を2本探し、茎の基部近くから切り取る。2本の葉柄は、小葉の最下部を合わせて両端を切り取って、支柱の長さを等しくする。片方に並んだ小葉を全て基部から切り落とし、反対側の残った小葉を5〜7cmの長さで切り落とす

バーには、できるだけ細長く真っ直ぐで、小葉が付いていない部分が長い葉柄を選んで使う。葉の両側の小葉を葉柄基部から切り落とし、その切り跡でケガをしないよう鎌で丁寧に削る。できれば、バーは細く軽い竹の棒が望ましい

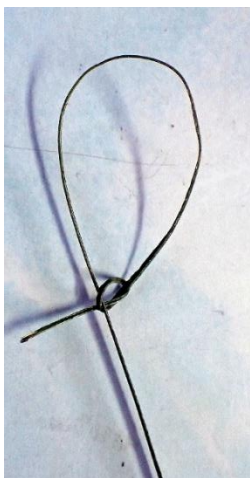
2本の支柱を稲刈り後の田んぼに適当な幅で突き立て、その間と後ろに稲藁を敷いて着地時のクッションとする。2本の支柱の小葉にバーを渡して高跳びをする

③ ヤモリ釣りの釣り竿

できるだけ長い小葉を選び、堅い中央の脈(中肋)を残して葉身は取り除く。中肋の先を丸めて輪っかを作る。捕らえたバッタの胸を輪っかを締めて縛る。ヤモリが活動を開始する薄暮の夕暮れ時に、高倉の柱や板の隙間にバッタを入れると、ヤモリが食いつくので釣り上げる



ヤモリ釣り竿



輪っか



支柱とバー設置



支柱とバー

④ こども達が使った腰蓑など

遊び道具ではありませんが、マーニの小葉の使われ方の写真を紹介します。右の写真では お遊戯会での女の子のダンスに、腰飾りとしてマーニの小葉が使われました。下は、1965年の旧盆の中日に行われたムシャマのミチサネ(=行列)で、男のこども達が昭和初期の歌謡曲・コミックソング「酋長の娘 ワタシのラバさん」を歌い踊りながら行進した時の写真です。

少子化の今ではこども達に代わり、大人がマーニの小葉を腰蓑にして踊っています。



マーニの小葉を腰蓑にして行列に参加するこども達:裸足で顔や腕、胸に墨を塗り、腰蓑と頭飾りにマーニの小葉が使われています。(写真:アウエハント静子, 1965年; 本人の許可を得て掲載)



こども達の踊り(写真:島村 修, マーニの小葉で作った腰飾りをつけている; 1960年代はじめ頃の写真)

しまむら けんしょう
石垣市大川在住

リーフクラフトを八重山の新しい文化に！⑤ イノシシの編み方

谷崎 樹生

これまで通信 No.1～4 でヤエヤマヤシの小葉を使ってさまざまな動物の編み方を紹介してきましたが、今回はイノシシの編み方を紹介したいと思います。皆さんも身近で手に入るヤシ類の小葉を使って、編んでみてください。



1) イノシシの編み方

尻尾や脚や首が長い作品は、乾燥が進むとひどく変形して残念な姿になってしまうことがありますので、編み上がった後所要所に木工用ボンドを爪楊枝で押し込んで、クリップで挟んで固定して乾燥させます。この仕上げの工程はとても大切ですが、結構面倒ですから「乾燥しても変形しない作品はできないものか、仕上げの工程を省ける作品を」と考えてたどり着いたのが、今回紹介する「イノシシ」です。ズングリした太い胴に短い脚と尻尾。コンパクトにまとまった編み上がりで、変形の余地の無い作品が仕上がりました。

これなら、ポケットに忍ばせておいても型崩れしません。頭部の編み方がやや複雑かもしれませんが、頑張って編んでみてください。

1) 胴体を編む

- 1 イノシシは胴体が太く頭も大きいので、幅広の葉を選びましょう。
- 2 尻尾は太短くていいですから、葉先は大胆に切り落とします。
- 3 短い尻尾だけを残して三枚に下ろし、尻尾の方から編み始めます（写真 1）。
- 4 斜め後ろに折り上げる折り目を少しずつ下に下げる（写真 2 の赤いライン）ようにしますと、胴体が太くなっていきます。体側の斜めの折り目（青色）が平行になるよう、その上のライン（黄色）が揃うように編みますと、美しく上げることができます。
- 5 帯の残りが 30 cm ほどになるまで5～7段編みますと、イノシシらしいズングリした胴体ができます（写真 3）。

2) 頭・前足・後足を編む準備

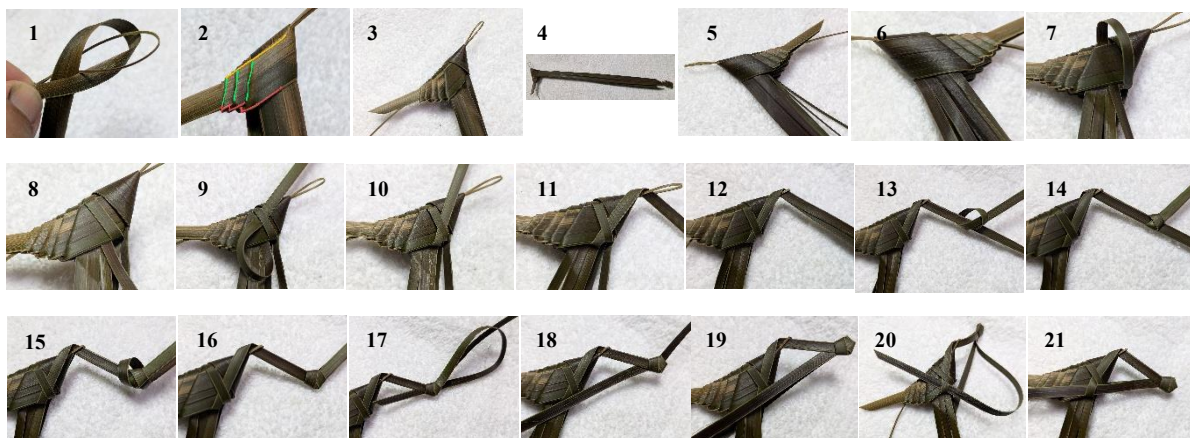
- 6 帯の端を揃え、後縁が尖るよう斜めに切ります（写真 4）。
- 7 帯の前縁を合わせて重ね、後縁（葉の縁）の太い筋を切除します（写真 5）。
- 8 残った帯を四等分して、前から1番～4番と呼ぶことにしましょう（写真 6）。

3) 頭の編み方

- 9 1番を上折り上げ、肩口から下に通して付け根の後ろ側に出し、引き締めます（写真 7～8）。
- 10 1番を斜め前上方に折り上げ、軸の輪の上から斜め下前方に曲げます（写真 9～12）。
- 11 右の1番を外側上向きに曲げ、左の1番を巻くように結びます（写真 13～14）。
- 12 左の1番も同じように結びと鼻先の位置が決まり、帯は揃って前方斜め上を向きます（写真 15～16）。
- 13 右の1番を内側後方に曲げて結び目の中を通し、後方に引き締めます（写真 17～18）。
- 14 左の1番も同様に編んで、後方へ（写真 19）。
- 15 左右の1番をそれぞれ左右の喉元の1番をすくって後方へ。これで頭部の輪郭が決まりました（写真 20～21）。

4) 前足の編み方

- 16 右の2番を上折り上げ、肩口から下に通して付け根の前側に出し、引き締めます（写真 22～24）。
- 17 右の2番を内側に曲げ、付け根の内側から肩口に出して折り目をつければ、前足の長さが決まります。
- 18 左の2番も同様に編み、左右の前足の長さを揃えます（写真 25～26）。
- 19 右の2番を右前足の脇の下から前に回して体側の2番と1番をすくって前へ、さらに外側後方斜め下に曲げて2番をすくって引き締めます。
- 20 左の2番でも同じように編み、ここで前足の工程は一時停止です（写真 27～31）。



5) 耳の編み方

- 21 右の3番を内側に曲げ、左の1番の外側から上へ、頭頂部の軸の輪の真ん中を下から上に通します。
- 22 左の3番も同様に編みます。腹側から見ると両前足の間で3番がクロスしています(写真32~35)。
- 23 左右の3番を後方に曲げ、写真36のように軸の輪の中の1番の内側に通せば、耳の大きさが決まります(写真36~37)。
- 24 耳の形を整えたら、3番を外側前方に折り曲げ、1番の内側を通して上へ(写真38~40)。
- 25 3番を外側に折り曲げ後方に向かわせ、3番・2番・1番の内側を通して後方に引き締めます(写真41~43)。

6) 後足の編み方

- 26 右の4番を背側から左に回し、一番後ろのポケットに通して後方斜め下に引き締めます(写真44~47)。
- 27 左の4番も同様に編み、外側に折り上げれば、後足の長さが決まります(写真48~49)。
- 28 4番を外側に曲げ、後足の付け根を巻いてから前方へ(写真50)。
- 29 さらに、写真51のように体側の斜めの帯の内側を通して鼻先へ(写真51)。
- 30 鼻先の結び目の中也通して引き締めれば、4番の編み方は終わりです。鼻先の結び目の形は左右で異なりますから、写真をよく見てきれいに通してください(写真52~54)。

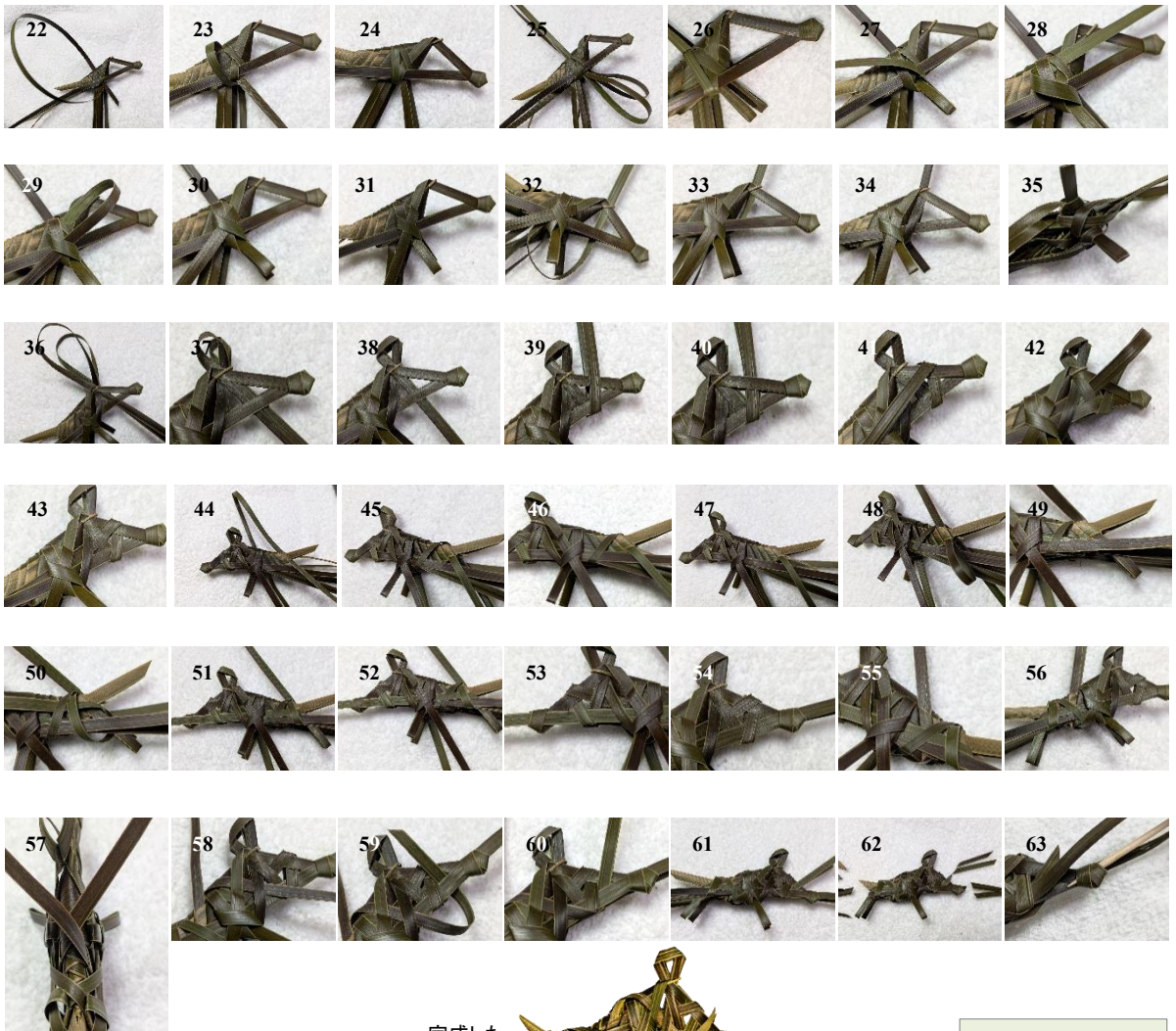
7) 前足の編み方の続き(2番の帯で牙を編みます)

- 31 左右の2番を、腹側から回して反対側の一番前のポケットに下から通して引き締めます(写真55~56)。
- 32 2番を背中中でクロスさせ、反対側の1番と3番をすくって、顎の下から1番の内側に回り、1番と3番で作った三角の穴に通して上へ(写真57~61)。

8) 仕上げる工程

- 33 鼻先・牙・尻尾・後足などの付け根の余分な帯をカットすれば、イノシシの完成です(写真62)。

★帯を通しにくい所では、写真63のように爪楊枝で迎える道筋をつけるといいでしょう。



完成した
「イノシシ」

たにぎきしげお
石垣市新川在住

コシダの茎などを使ってさまざまなものを作ってみましょう。コシダはウラボシと間違われることの多いのですが、茎は籐などのさまざまな民具の材料に使われています。ここでは、一輪挿しやはがき立てなどを作ってみましょう。一輪挿しは茎をしばらく乾燥させてから作れば、作業が更に容易になるでしょう。セイロンベンケイの花の中からネズミも取り出してみましょう。



道路の斜面に生えたコシダ

1) コシダ

コシダは荒地や道路の斜面などに生えるシダの仲間です。ウラボシと同じように、しばしば正月飾りなどに使われています。ここでは葉や茎、葉柄などを使って草玩具を作ってみましょう。

① 一輪挿し

コシダの茎はバスケットなどの優れた材料として、さまざまな民具編みに使われています。茶碗など洗った物を干したり保存する籠としてよく使われていましたが、いまではとても高価になってしまいました。ここでは、もっと簡単に作ることができる一輪挿しを作ってみましょう。

作り方

- ・コシダの茎を適当な長さに切る（写真左と柄を除く部分には中に入れるアルミ缶と同程度の高さに切って使用します）
- ・写真下のようにクラフトテープを裂いて作った紙ひもで茎をうまく編んで板状にし、コーラの缶を巻きます
- ・好みの花を庭でつんで活け、一輪挿しとして使えるでしょう

- ・台座にドリルで穴を開け、基部にボンドを付けた茎を穴に挿し込みます
- ・上部を同様に紙テープで編んで止め、中に小さな試験管などを挿し込みます
- ・それを一輪挿しとして使ってみるとよいでしょう



少し手の込んだ作りを試みる場合は、紙テープや糸（針金や風糸またはテグスなど）で、コシダの茎をいろいろな方法で編んですだれを作る。それを用いて器を巻くなど、さまざまな工夫をして、思い思いに作ってみよう。

② はがき立て

コシダを茎や茎に続く葉柄の部分を含めて切り取り、はがき立てを作ってみましょう。三叉の葉柄の部分にはがきを挟み、はがき立てにするか、茎の部分で四角に組んではがき立てにすることもできるでしょう。

写真に示したような写真立ての他にも、いろいろと作ることができるでしょうから、工夫して作ってみましょう

作り方

① 茎+葉柄のはがき立て

茎+三叉の葉柄を準備し、木の台座に開けた穴に挿して立つようにします。三叉の葉柄にはがきを挟んで立てます。上下の葉柄に2枚のはがきを同時に立ててもよいでしょう

② 茎を四角に組んではがき立て

はがきより長い茎を6本準備し、右の写真の右側のように4角に組み、クラフトテープを裂いたひもでしっかり縛ります。上横棒の中央に縦棒よりやや短めの茎を縛り、それを支えにしてはがき立ての支柱にします



コシダの茎に葉柄を付けたまま台座に挿してはがき立てにする
あるいはコシダの茎を四角に組んではがきを挿す



はがき立て

③ 葉の一部で魚の部品をつくる

葉を魚に見立てコシダを加え、魚を作ってみましょう

- ・葉を乾燥させて押し葉を作り、魚を作ってみましょう
- ・他の植物の葉と組み合わせる魚の形にしてもよいでしょう
- ・工夫して、さまざまな魚を作ってみましょう



シュロガヤツリ（大葉 英雄）

*訂正：通信 No.4 に掲載したシュロガヤツリの写真は、オオアブラガヤとの指摘が大葉英雄さんからありました。シュロガヤツリ（大葉さん撮影）の写真を添えて訂正します。

花を眺めて愛でるのもよいのですが、解剖して中に隠れている器官を取り出して遊ぶのも、思わぬ発見があって面白いものです。ここでは、野にある背の高いお馴染みのセイロンベンケイや、花壇や道路わきなどに植栽されているキダチベンケイソウなどの花を解剖して遊んでみましょう。思わぬ発見があるかも知れません。

1) セイロンベンケイ

セイロンベンケイは草丈はいろいろですが、年が明けたころに花序が伸び始め、春先頃まで花期が続きます。花を解剖すれば、中から小さな緑色のネズミを取り出すことができます。尾を一本残し、耳を左右2個にしてでき上がりです。花を開いて小さなネズミを外に出して、遊ぶことができます。

また、葉を本に挟んでおきますと、しばらくして葉縁のギザギザのところから芽が出る面白い植物で、「マザーリーフ」とか「コダカラソウ」などとも呼ばれているそうです。その後、本に挟んだところから外に出し、育てることもできますので試してみましょう。



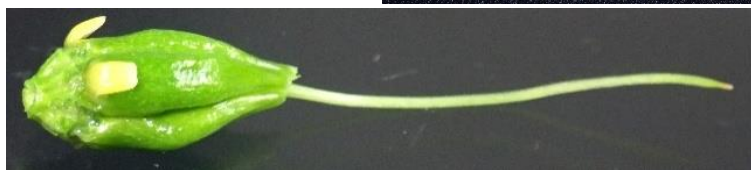
セイロンベンケイ



セイロンベンケイの花を開く →



葉縁の鋸歯(ギザギザ)から芽が出る



セイロンベンケイのネズミ

2) キダチベンケイソウ

庭や道路で見かけるようになったベンケイソウの仲間に、キダチベンケイソウがあります。全体的にはセイロンベンケイに似ていますが、概して草丈が低く、赤みが強いことが多いようです。セイロンベンケイと同じように、隠れたネズミを取り出して遊ぶことができます。



キダチベンケイソウの花を開いてみると……



キダチベンケイソウ



キダチベンケイソウのネズミ

にしひら もりたか
那覇市首里石嶺町在住